

ふるさと歴史散歩 235

～松前史談会レポート～

伊豫岡八幡神社と周辺巡り I

参加者一行は、定刻通り8時30分、車に乗り合わせて国道56号を伊予市へ向かう。郡中小学校を見ながら左折し、小学校正門前を右折、少し行くと伊豫岡八幡神社に着く。車をやや広い駐車場に駐車して今回の歴史散歩がスタート。

松山の椿神社（伊豫豆比古命神社）の楼門（2階建ての櫓のある門）の参考にしたといわれる嘉永2（1849）年再建の楼門を見学していると、神社のお世話をしている宮崎さん（伊予市上吾川在住）が偶然来られ、地元ならではの貴重なお話を伺うことができた。宮崎さんによると、地元の氏神様は、伊豫岡八幡神社ではなく、その左側にある上之川神社であること、昔上吾川と下吾川の間に頻繁に起った水争いを鎮めるためにつくられた四角・八角のみこしが拝殿にあること、みこしは秋祭りの時に使用していたが今は使われていないとのことである。

元禄7（1694）年に建立された拝殿には、日露戦争の絵馬、神功皇后の絵馬、船絵馬などが掛けられている。日露戦争から無事帰還した下吾川の氏子たちによって

八幡神社に奉納された日露戦争の絵馬（市指定文化財）が拝殿奥の室内にある。赤十字の腕章を着けた日本の救護兵たちがロシアの負傷兵を手当てしているもので、博愛の精神を象徴するものである。また、長岡靖夫氏が作成したこの絵のレプリカが拝殿にあり、じっくり鑑賞することができる。次号に続く。（宮内祐記）

【参考文献】『いーぐるっと88』発行・編集／伊予市観光協会



❶ ロシア兵の手当てをする日本兵の絵馬 明治37～38（1904～1905）年の日露戦争で明治政府は、国際法（ハーグ陸戦条約）を守り、松山の捕虜収容所で捕虜を丁寧に扱った。戦場でもその精神が守られ、敵味方にかかわらず負傷者を丁寧に扱った。この絵馬は当時の様子を伝える貴重な絵馬である

❷ 伊豫岡八幡神社の楼門 立派な2階建て櫓の楼門。楼門から続く階段が参拝者に畏敬の念を抱かせるように連なっている

12月14日④の歴史散歩は、砥部町の明和の水論「矢取川事件」の跡地などを訪ねます。8時30分に松前庁舎南駐車場を出発。交通費500円。お申し込みは麻生まで。

松前史談会（麻生） ☎ 090-4472-8136

community learning center 公民館 だより

【開館時間】 9時～22時 【休館日】 12月28日～1月4日
◆東公民館 神崎210 ☎ 984-1159 FAX 984-1457
◆西公民館 北黒田966-2 ☎ 984-5313 FAX 984-5313
◆北公民館 昌農内456-1 ☎ 984-7529 FAX 984-9398

西公民館

毎月順番に活動内容をお届け！

愛護部主催「日帰り遠足」



⑥よ〜く狙って！クップで大盛り上がり
⑥難しいコースに挑戦。落ちないように慎重に

9月28日、国立大洲青少年交流の家で松前小学校4～6年生を対象に日帰り遠足を開催しました。

午前中は違う学年の友達と班を組んで、グループワークゲームをしました。初めは緊張した様子の子どもたちでしたが、班対抗でゲームをするうちに笑顔が増えていきました。みんなで昼食を食べた後は、そびえ立つ高い壁を上げる「ボルダー」や、棒を投げて、相手コートに倒すニュースポーツ「クップ」に挑戦。自分の限界に挑戦したり、班で競い合ったりして盛り上がりました。

子どもたちは、友達との仲を深め、笑顔あふれるすてきな1日を過ごすことができました。

ふるさと ライブラリー

◆開館時間 9時30分～19時
◆問い合わせ ☎ 985-4140
FAX 985-1386
<https://www.i-masaki.jp/library/>
◆年末年始の休館 28日④～1月4日④

おはなし会
21日④
11時～

文化センター
3階視聴覚学習室

◆新着本 紹介

毎週新しい本を入荷し、随時、新着本コーナーに展示しています。貸し出し状況、予約状況はお問い合わせください。

▶まず良識を
みじん切りに
します
浅倉秋成・著
光文社



「とにかくヘンな小説をお願いします」。そんな依頼に応えるべく、炒めて煮込んで未知のうまみを引き出した傑作集。「六人の嘘つきな大学生」の作者による前人未踏の短編集

▶その時鐘は鳴り響く
宇佐美まこと・著
東京創元社



松山で起きた学生の事故死。失踪した同級生が、30年後にメッセージを残してきた。同じ頃、東京では資産家殺人事件が発生。過去と現在が交錯するとき、二つの事件の真相が明らかになる

▶禁忌の子
山口未桜・著
東京創元社



救急医、武田の元に搬送されてきた身元不明の溺死体は、武田とより二つだった。彼は何者なのか、なぜ死んだのか。武田は旧友で医師の城崎と共に調査を始めるのだが…

逃げ上手は
生き方上手
頭が良い人は、
楽な方法を使える人

▶逃げ上手は生き方上手
和田秀樹・著
実業之日本社



「逃げる」は弱さや失敗の象徴とされがちだが、実はそれこそ最強の生存戦略かも。どのように逃げるのか、逃げてはいけない場合もあるのかなど、和田流の「逃げる術」を指南する

▶灯台を読む
門井慶喜(か)・著
文藝春秋



人気作家6人による、灯台の歴史的・文藝的・地域的な価値を文学的な視点でつづった紀行集。門井慶喜×瀬戸内海、澤田瞳子×高知県など、撮り下ろし写真も多数収録

▶盲導犬との絆、
静かな感動
全日本盲導犬
使用者の会・著
ワニ・プラス

目となり、足となり、いつも一緒に歩いてくれる盲導犬との出会いや別れ、かけがえのない思い出たち。光を失った33人の盲導犬ユーザーが、パートナーである盲導犬との絆をつづった1冊